

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間の尊厳と自立		介護福祉学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	坂井 利成
授業の概要				
・人間の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。				
授業終了時の到達目標				
・人間の理解を図る ・人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解する				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として9年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントの復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①人間理解と尊厳 1. 本科のねらいと概要	人間の尊厳についてグループワークを行う		
2	2. 自己理解・他者理解1:自己理解の重要性	自己覚知について解説		
3	3. 自己理解・他者理解2:他者理解について	他者理解について解説		
4	4. 自己理解・他者理解3:他者と自己の価値観の相違	生活歴と価値観について学ぶ		
5	5. 自己理解・他者理解4:人間の多面的理解について	多面的理解の方法について学ぶ		
6	6. 自己理解・他者理解5:自己の置かれている環境とは	環境の重要性について解説		
7	7. 自己理解・他者理解6:支援者として自分を見つめる	支援者としての介護観、倫理について学習する		
8	8. 自己理解・他者理解7:自律と自立	自立の概念について学ぶ		
9	②人権と尊重 9. 人権尊重と権利擁護1:権利としての人権(制度としての人権を考える)	制度における権利擁護を学ぶ		
10	10. 人権尊重と権利擁護2:事例検討(施設介護について)	グループワーク、事例検討、人権擁護の在り方を学習する		
11	11. 人権尊重と権利擁護3:事例検討(在宅介護について)	グループワーク、事例検討、人権擁護の在り方を学習する		
12	12. 人権尊重と権利擁護4:事例検討(社会福祉について)	グループワーク、事例検討、人権擁護の在り方を学習する		
13	13. 介護における尊厳の保持・自立支援1:医学モデルと生活モデル	医学モデルと生活モデルの違いを学習し、支援者としての在り方を学ぶ		
14	14. 介護における尊厳の保持・自立支援2:エンパワメントについて	エンパワメントにつながる支援方法を考察する		
15	15. 人権と尊重:まとめ	人権尊重、尊厳の重要性を考察する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新・介護福祉士養成講座 第1巻 中央法規出版 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	準備学習:テキストを事前に熟読しておくこと 採点内訳:確認テスト60% 平常点40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間関係とコミュニケーション		介護福祉学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	坂井 利成
授業の概要				
・介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。				
授業終了時の到達目標				
・介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う ・他者理解や情報の伝達に必要なコミュニケーション能力を養う				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として9年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントの復習をしておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①コミュニケーション基礎 1. 自己覚知、他者理解	自己覚知、他者理解の方法を学習する		
2	2. ラポール1: 支援関係における人間関係の重要性について	人間関係の仕組みについて解説する		
3	3. ラポール2: 職業倫理をふまえた専門的支援関係について	職業倫理と専門的支援関係を学ぶ		
4	4. 対人関係1: コミュニケーションの意義	対人関係におけるコミュニケーションの意義を学ぶ		
5	5. 対人関係2: コミュニケーションの概要	対人関係におけるコミュニケーションの概要について学ぶ		
6	6. 言語的コミュニケーション(理論)	言語的コミュニケーションの特徴について学習する		
7	7. 非言語的コミュニケーション(理論)	非言語的コミュニケーションの重要性を学び、ロールプレイを行い理解を深める		
8	②コミュニケーション技術 8. 対人距離	対人距離についてロールプレイを行い、適切な対人距離を知る		
9	9. コミュニケーション環境	適切なコミュニケーション環境を学ぶ		
10	10. 受容、傾聴、共感	受容、共感、傾聴について学習し、グループワーク等で理解を深める		
11	11. 様々なコミュニケーション手段について1: 道具を用いた言語的コミュニケーション	文字媒体を活用したコミュニケーションを考え、グループワークを行う		
12	12. 様々なコミュニケーション手段について2: 記述によるコミュニケーション	相手に伝わるための記録について学習する		
13	13. 言語的コミュニケーション(演習)	相手に伝わる言語的コミュニケーションを考える		
14	14. 非言語的コミュニケーション(演習)	グループワーク、ロールプレイにより非言語的コミュニケーションの効果を学習する		
15	15. 多職種との連携、まとめ	多職種連携を図る上でのコミュニケーションの重要性を学習する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新・介護福祉士養成講座 第1巻 中央法規出版 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト60% 平常点40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活と福祉		介護福祉学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	坂井 利成
授業の概要				
・個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや自助から公助にいたる過程について理解するための学習とする。				
授業終了時の到達目標				
・個人主体の福祉から社会中心の福祉への転換理由を述べることができ、自分なりの意見を表明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として9年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①家庭生活の基本機能 1. 生産・労働、教育・教養、保健・福祉、生殖、やすらぎ、交流、その他	家庭生活の基本機能について解説を行う		
2	2. 生産・労働、教育・教養、保健・福祉、生殖、やすらぎ、交流、その他	家庭生活の基本機能について解説を行う		
3	②家族 3. 概念、変容、形態、機能、役割、家族観	家族について学習する。		
4	③地域 4. 地域の概念、コミュニティの概念	地域の概念について学習する		
5	5. 都市化と過疎化	都市化と過疎化の問題点について学習する		
6	6. 地域社会の集団・組織	地域社会の集団、組織の役割を学習する		
7	④社会、組織 7. 社会、組織の概念、機能、役割	社会の仕組み、組織について学習する		
8	8. グループ支援、組織化、エンパワメント	グループの支援方法について学習する グループワークを活用		
9	⑤ライフスタイル 9. 雇用について	雇用問題について解説し、現代の雇用問題を調べる		
10	10. 少子化、健康寿命の延長について、余暇時間の延長における生涯学習、地域活動の参加について	少子高齢化の問題と地域社会の問題を説明する		
11	⑥社会構造 11. 産業化・都市化	産業化、都市化について学習する		
12	12. 地域社会の変化	地域社会がどのように変化しているのかを学ぶ		
13	⑦生活支援と福祉 13. 生活の概念	生活の概念の変化を学ぶ		
14	14. 福祉の考え方とその変遷	福祉の考え方の変化を歴史から学ぶ		
15	15. 自助、互助、共助、公助について	自助、互助、共助、公助について説明を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新・介護福祉士養成講座 2 社会と制度の理解 中央法規出版 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと。 【採点内訳】 確認テスト：60% 平常点：40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
レクリエーション理論		介護福祉学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	高吉 亮平
授業の概要				
・基本的なレクリエーションの考え方を学び、介護の現場でどのようにレクリエーションを活用すべきかを学んでいく。				
授業終了時の到達目標				
・レクリエーションの基礎的な考えを理解する。 ・利用者に合わせたレクリエーション計画を立案するための知識、理論の習得				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として6年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①レクリエーションの基本概念 1. レクリエーションの意義	レクリエーションとは何か、意義・目的などを学ぶ。		
2	2. レクリエーション運動を支える制度	レクリエーションに関連する制度について学ぶ。		
3	3. レクリエーションインストラクターの役割	レクリエーションインストラクターの役割について学ぶ。		
4	②社会福祉とレクリエーション 4. 現代社会の課題とレクリエーション	レクリエーション運動の公認指導者資格と認定登録制度について学ぶ。		
5	5. 福祉レクリエーションの考え方と役割	レクリエーション活動の楽しさを通してレクリエーション活動の重要性について理解する。		
6	6. 福祉レクリエーションの展開	社会参加を通してのレクリエーションの展開について学ぶ。		
7	③レクリエーション支援論 7. ライフスタイルとレクリエーション	個々人のライフスタイルに合わせたレクリエーションの展開について学ぶ。		
8	8. 地域とレクリエーション	児童や高齢者に対しての地域のきずなづくりについて学ぶ。		
9	9. レクリエーションにおけるリスクマネジメント	リスクマネジメントとは何かレクリエーションでのリスクは何かを学ぶ。		
10	④レクリエーション事業論 10. レクリエーション事業とは	レクリエーション事業とは何か、行政機関との関わりについて学ぶ。		
11~13	11. 事業計画 1			
14	14. 安全管理	レクリエーションの安全管理について学ぶ。		
15	15. レクリエーション理論まとめ	授業のまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
レクリエーション支援の基礎 (公財)日本レクリエーション協会 適宜資料、プリント配布 楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法 (公財)日本レクリエーション協会		総合評価	100.0%	【事前準備】テキストを熟読しておくこと 【採点内訳】期末テスト: 60% 平常点: 40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
接遇		介護福祉学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	後藤ケイ子
授業の概要				
思いやりの気持ちを持ち、コミュニケーションを図るための接遇マナーを身につけること。				
授業終了時の到達目標				
基本的なマナーが実践できること。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	社会人としての心構え	社会人としての心構えについて説明する マナーの重要性を学習する		
2	身だしなみ、表情、あいさつ、態度	社会人として適切な、身だしなみ、表情、あいさつ、態度 についてロールプレイを行う		
3	コミュニケーション技術	社会人として正しい言葉遣い、態度を学ぶ		
4	来客対応	来客時の対応方法をロールプレイを通じて学習する		
5	接客マナー	接客マナーについてロールプレイを行い、正しい接客マ ナーを習得する		
6	接客マナー	接客マナーについてロールプレイを行い、正しい接客マ ナーを習得する		
7	電話対応マナー	電話対応についてロールプレイを行う		
8	クレーム対応	クレーム対応方法を学習する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを 熟読しておくこと 【採点内訳】 授業態度：60% 平常点：40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
文章表現		介護福祉学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	2単位(16時間)	必須	坂井 利成
授業の概要				
正しく実習記録を書けるようにする。				
授業終了時の到達目標				
具体的な文章を書けるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
新聞を読む習慣をつけること				
回	テーマ	内容		
1~3	介護における専門用語	介護における専門用語について理解を深める		
4	5W1Hについて	具体的な記録の書き方について理解を深める		
5	5W1Hを活用した文章	具体的な記録を理解する		
6~8	事例演習	事例を活用し適切な記録を理解する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜資料、プリント配布		課題・レポート	100.0%	【事前準備】 配布資料、プリントを確認しておくこと

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護の基本 I		介護福祉学科/1年	2020/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	60回	8単位(120時間)	必須	金井 太佑
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な知識・技術を養う。 ・自立支援の観点から介護実践できる能力を養う。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士としての基本的な知識、技術を活用できる。 ・自立支援の意義を理解し、利用者に合わせて応用できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として13年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①介護福祉士を取り巻く状況 1. 介護の歴史 1	介護の歴史について解説を行う。		
2	2. 介護の歴史 2	介護の歴史について解説を行う。		
3	②介護問題の背景 3. 平均寿命、合計特殊出生率、少子高齢化、核家族化、女性の社会進出、家族機能の変化	平均寿命、出生率、少子高齢化等から介護問題について理解する。		
4	4. 老々介護の問題、高齢者自殺、介護疲れによる問題、虐待	介護の問題について理解する。		
5	5. 生活の価値観の変化、団塊の世代、介護保険制度の改正	時代ごとの価値観の変化、介護保険制度について理解する。		
6	③社会福祉士及び介護福祉士法 6. 介護福祉士の定義	介護福祉士について理解する。		
7	7. 介護福祉士の専門性	介護福祉士の専門性について理解する。		
8	8. 名称独占、業務独占	名称独占、業務独占について理解する。		
9	④専門職団体の活動 9. 専門職団体の役割、機能	専門職団体の役割、機能について理解する。		
10	10. 日本介護福祉会倫理綱領の理解	日本介護福祉会倫理綱領について解説を行い理解する。		
11	⑤QOL、ノーマライゼーション、利用者主体 11. QOLの考え方 1	QOLの考え方について解説を行う。		
12	12. QOLの考え方 2	利用者主体、QOLの向上についてグループワークを行う。		
13	13. ノーマライゼーションの考え方	ノーマライゼーションの考え方について解説を行う。		
14	14. ノーマライゼーションの実現	ノーマライゼーションの実現についてグループワークを行う。		
15	15. 利用者主体について	利用者主体についてグループワークを通して理解する。		
16	⑥自立支援、ICF、リハビリテーション 16. 自立、自律の考え方	自立と自律の考え方について解説を行う。		
17	17. 個別ケアの具体的展開	個別ケアの具体的展開について例を通して解説を行う。		
18	18. ICFの考え方	ICFの考え方について解説を行う。		

回	テーマ	内容
19	19. アセスメント	アセスメントとは何か、解説を行う。
20	20. リハビリテーションの考え方	リハビリテーションの必要性、考え方について解説を行う。
21	21. リハビリテーションの実際	リハビリテーションの実際について理解する。
22	22. 病院、施設でのリハビリテーション	病院、施設でのリハビリテーションについて具体例を通して理解する。
23	23. 在宅におけるリハビリテーション	在宅におけるリハビリテーションについて解説を行う。
24	24. 介護予防	介護予防について解説を行う。
25	25. リハビリテーション専門職との連携	リハビリテーションの専門職との連携について解説を行う。
26	⑦人間の多様性、複雑性の理解 26. 個別性の理解	個別性の理解について解説を行う。
27	27. 価値観について	価値観について具体例を通して解説を行う。
28	⑧高齢者の暮らしの実際 28. 健康について	高齢者の健康について解説を行う。
29	29. 生活歴	生活歴について解説を行う。
30	30. 生活様式	生活様式について解説を行う。
31	31. すまい	すまいについてグループワークを行う。
32	32. 就労、雇用	高齢者の就労、雇用について解説を行う。
33	33. 収入、生計	高齢者の収入、生計について解説を行う。
34	34. 社会活動、余暇活動	高齢者の社会活動、余暇活動についてグループワークを行う。
35	35. 役割	高齢者の役割についてグループワークを行う。
36	⑨障害のある人のくらしの理解 36. 障害とは	障害のある人の障害とはどのようなことなのか解説を行う。
37	37. 障害のある人の生活ニーズ 1	障害のある人の生活のニーズについて解説を行う。
38	38. 障害のある人の生活ニーズ 2	障害のある人の生活のニーズには何が考えられるかグループワークを行う。
39	39. 生活を支える基盤 1	生活を支える基盤とは何か解説を行う。
40	40. 生活を支える基盤 2	生活を支える基盤とは何か解説を行う。
41	41. 生活を支える基盤 3	生活を支える基盤とは何か解説を行う。
42	42. 生活を支える基盤 4	生活を支える基盤とは何か解説を行う。
43	43. 生活を支える基盤 5	生活を支える基盤とは何か解説を行う。
44	44. 生活を支える基盤 6	生活を支える基盤とは何か解説を行う。
45	45. 生活を支えるサービスとその現状 1	生活を支えるサービスとその現状について解説を行う。
46	46. 生活を支えるサービスとその現状 2	生活を支えるサービスとその現状について解説を行う。
47	47. 生活を支えるサービスとその現状 3	生活を支えるサービスとその現状についてグループワークを行う。
48	48. 生活を支えるサービスとその現状 4	生活を支えるサービスとその現状についてグループワークを行う。
49	49. ノーマライゼーション 1	ノーマライゼーションの実現について解説を行う。
50	50. ノーマライゼーション 2	ノーマライゼーションの実現についてグループワークを行う。
51	⑩介護を必要とする人の生活環境の理解 51. 生活、生活環境の考え方 1	生活、生活環境の考え方について解説を行う。

回	テーマ	内 容		
52	52. 生活、生活環境の考え方2	生活、生活環境の考え方について解説を行う。		
53	53. 家族の理解	家族の理解についてグループワークを行う。		
54	54. 地域の理解	地域の理解について解説しグループワークを行う。		
55	55. 社会の理解	社会について解説を行う。		
56	①介護サービス 56. ケアプラン、ケアマネジメントの流れ1	ケアプランの作成、ケアマネジメントについて解説を行う。		
57	57. ケアプラン、ケアマネジメントの流れ2	ケアプラン、ケアマネジメントの流れについて解説を行う。		
58	58. 介護保険制度1	介護保険制度について解説を行う。		
59	59. 介護保険制度2	介護保険制度について解説を行う。		
60	60. サービスの報酬、算定基準	サービスの報酬、算定基準について解説を行う。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新介護福祉士養成講座 第3巻 第4巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト60% 平常点40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護の基本Ⅱ		介護福祉学科/1年	2020/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	高吉 亮平
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・多職種協働および地域の役割を理解し、ケアにおける連携の重要性を学ぶ。 ・介護従事者としての倫理を理解し、利用者の尊厳の保持や自立支援を目指した介護を学ぶ。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・多職種の役割を理解し、チームアプローチのしくみが理解できる。 ・利用者の尊厳を守った介護を実践できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として6年の実務経験あり これまでの介護実践を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①介護実践における連携 1. 多職種連携の意義と目的、他の福祉職種の機能と役割	多職種連携の意義と目的について学ぶ。		
2	2. 保健医療職種の機能と役割、その他の関連職種の機能と役割	利用者を支援する様々な専門職について、基礎的な理解を深める。		
3	②地域連携 3. 地域連携の意義と目的、インフォーマルサービスの機能と役割、連携	地域連携の意義と目的について学ぶ。		
4	4. 地域包括支援センターの機能と役割、連携	地域の機関や組織について理解し、どのような役割を果たしているのか基礎的な知識を学ぶ。		
5~6	③介護従事者の倫理 5. 職業倫理 1、2	介護福祉士を取り巻く状況について理解する。		
7~8	7. 職業倫理 3、4	社会福祉士及び介護福祉士法の概要について学ぶ。		
9~10	9. 職業倫理 5、6	介護福祉士が守るべき義務規定の意味を学ぶ。		
11~12	11. 職業倫理 7、8	日本介護福祉士会の倫理綱領および活動を理解する。		
13	④利用者の人権と介護 13. 虐待 1	虐待の種類や現状について理解を深める。		
14	14. 虐待 2	虐待について理解を深め介護職における対応方法を学ぶ。		
15	⑤プライバシーの保護 15. 個人情報保護	個人情報保護法について理解を深める。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新介護福祉士養成講座 第3巻 第4巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト60% 平常点40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
コミュニケーション技術 I		介護福祉学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	高吉 亮平
授業の概要				
対人援助職としてのコミュニケーションのあり方について理解し、具体的な利用者・家族に対するコミュニケーションの技法に、ならびに介護チームの多職種間のコミュニケーション技法について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割について理解し、自分の言葉で説明できる。 ・利用者、家族との関係づくりについて理解する。 ・さまざまなコミュニケーション技法について理解する。 ・利用者個別の状態を理解し、それに応じたコミュニケーション技法について学び習得する。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として6年の実務経験あり これまでの介護実践を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	講義全体の説明、アイスブレイク、自己紹介、プチレク		
2	介護におけるコミュニケーションとは	コミュニケーションの意義と役割、コミュニケーションの基本		
3	介護におけるコミュニケーションの役割 介護における生活支援とコミュニケーション	利用者・家族との信頼関係の形成、 利用者を深く理解するためのコミュニケーション、 介護福祉士に求められるコミュニケーション		
4	話を聴く技法	話を聴く技法 【演習】「聴くこと」と「聴かないこと」の体験 【演習】「情景化」トレーニング		
5	利用者の感情表現を察する技法	感情表現を察する技法 【演習】「共感」について～応答の技法～ 【演習】豊かな感情表現		
6	利用者の納得と同意を得る技法	納得と同意を得る技法 【演習】要約して伝えよう 【演習】相手の尊厳を支える技法～リフレーミング～		
7	質問の技法	質問の技法 【演習】開かれた質問と閉じられた質問 【演習】質問シャワー		
8	相談・助言・指導の技法	相談・助言・指導の技法 利用者の相談を受ける技法		
9	利用者の意欲を引き出す技法	利用者の意欲を引き出す技法 意欲が低下している利用者へのはたらきかけ		
10	利用者と家族の意向を調整する技法	利用者と家族の意向を調整する技法 【演習】利用者と家族の意向を調整する 【演習】異なる意向の背景を知る		
11	複数の利用者がある場面でのコミュニケーション技法	複数の利用者がある場面でのコミュニケーション技法 【演習】グループサイズの相違と展開 【演習】グループ回想法の体験		
12	コミュニケーション障害の理解	コミュニケーションの傷害とは、コミュニケーション障害の原因、コミュニケーション障害を理解する視点、さまざまなコミュニケーション障害		
13	コミュニケーション障害のある利用者への対応①	コミュニケーション障害のある利用者を支えるコミュニケーション技術 コミュニケーション障害の状態を観察し、情報収集する技術		
14	コミュニケーション障害のある利用者への対応②	コミュニケーション障害の傾向を分析・解釈・評価する技術 コミュニケーションの方法を立案し、実践する技術		
15	まとめ/試験対策	前期のまとめ 試験対策		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新介護福祉士養成講座 第5巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト60% 平常点40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術 I		介護福祉学科/1年	2020/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	堀内有・谷川
授業の概要				
・利用者がその人らしい生活を営むために必要な、介護技術を学び、個別に対応できる能力を養う。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者ニーズを理解し、優先順位を考えることができる。 ・ICFの視点にもとづいて、介護技術を活用できる。 ・自立に向けた介護技術を提供できる。 ・他職種の役割を理解できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①身支度の介護 1. 身支度の意義と目的	身支度の意義と目的について解説を行う		
2	2. アセスメント	アセスメントとは何か、またポイントについて解説を行う		
3	3. 整容、衣生活の調整	整容・衣生活の調整について説明を行う。		
4	4. 介助方法	身支度の介助方法について説明を行う		
5	5. 利用者の状態に応じた介護の留意点 1	利用者の状況に応じた介護技術の注意点について解説を行う		
6	6. 他職種の役割と協働	他職種にはどのようなものがあるか、各職種の役割について解説を行う		
7	②移動の介護 7. 移動の意義と目的	移動することの意義、目的について解説を行う		
8	8. アセスメント	移動についてのアセスメント方法について解説を行う		
9	9. 安全な移動の介護 1	安全に移動する介助方法について、実技を交えながら解説を行う		
10	10. 安全な移動の介護 2	安全に移動する介助方法について、実技を交えながら解説を行う		
11	11. 介助方法	安全に移動できるように介助方法について実技を行う		
12	12. 介助の留意点 1	移動の介助の実技を行いながら留意点について学ぶ		
13	13. 介助の留意点 2	移動の介助の実技を行いながら留意点について学ぶ		
14	14. 安楽な移動	安楽な移動について実技を行う		
15	15. 他職種の役割と協働	他職種との役割と協働について解説を行う		
16	③食事の介護 16. 食事の意義と目的	食事の意義と目的について解説を行う		
17	17. アセスメント	食事のアセスメントについて解説を行う		
18	18. 安全な食事介助	安全な食事介助とは何かを解説を行う		

回	テーマ	内 容		
19	19. 利用者の状態、状況に応じた介護の留意点	利用者の状態、状況に応じた介護の留意点について解説を行う		
20	20. 食事形態	食事形態について解説を行う		
21	21. 他職種の役割と協働	食事介助における他職種との連携について解説を行う		
22	④排泄の介護 22. 排泄の意義と目的	排泄の意義と目的について解説を行う		
23	23. アセスメント	排泄におけるアセスメントの方法について解説を行う		
24	24. 快適な排泄	快適な排泄とは何かを解説を行う		
25	25. 安全な排泄介助	安全な排泄介助を行うには、どのようにすればよいかを解説を行う。		
26	26. 尊厳を考えた排泄介助	尊厳を考えた排泄介助について解説を行う		
27	27. 尊厳を考えた排泄介助	尊厳を考えた排泄介助とは何かをグループワークを行う		
28	28. 利用者の状態、状況に応じた介助の留意点 1	利用者の状態、状況に応じた介助の留意点について解説を行う		
29	29. 利用者の状態、状況に応じた介助の留意点 2	利用者の状態、状況に応じた介助ができるよう実技を行う		
30	30. 他職種の役割と協働	他職種との役割と協働について解説を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新介護福祉士養成講座 第6巻 第7巻 第8巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：60% 平常点：40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅳ 介護予防とレクリエーションⅠ		介護福祉学科/1年	2020/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	高吉 亮平
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション活動計画の作成および実施方法を学ぶ。 ・レクリエーション活動援助者の役割を理解する。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション計画を立案でき、自己のレクリエーション観を確立できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として6年の実務経験あり これまでの経験を活かし、学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
配布プリント、課題は必ずしておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①レクリエーション支援論 1. ライフスタイル 2. レクリエーションの課題	ライフスタイルの中のレクリエーションについて学習する		
2	3. 行事とは 4. 地域レクリエーション	行事のあり方、企画について学習する 地域でのレクリエーションについて学ぶ		
3	5. 今後のレクリエーション変化 6. 個別性を考えたレクリエーション1	レクリエーションのあり方の変化、個性のあるレクプログラムの立案について学習する		
4	7. 個別性を考えたレクリエーション2 8. レクリエーション企画1	個性のあるレクプログラムを立案し、企画書を作成する		
5~6	9. レクリエーション企画2 10. レクリエーション企画3	企画書作成および、レク支援の準備		
7	13. プログラム1 14. プログラム2	企画書作成および、レク支援の準備		
8	15. プログラム3 ②レクリエーション実技 16. 福祉レクリエーション1	企画書作成および、レク支援の準備 福祉レクのポイントを学習する		
9	17. 福祉レクリエーション2 18. コミュニケーションワーク1	福祉レクのポイントを踏まえ、グループワークを行い、企画書の修正を図る		
10	19. コミュニケーションワーク2 20. アイスブレイキング1	レク企画書を完成させる アイスブレイクのレクプログラムを学習する		
11	21. アイスブレイキング 22. 支援実習1: 企画	アイスブレイクのレクプログラムを学習する レク支援を学生同士で実施するための企画書作成		
12	23. 支援実習2: 企画 24. 支援実習3: 準備	レク支援を学生同士で実施するための企画書作成 レク支援準備		
13	25. 支援実習4: 準備 26. 支援実習5: 実践	レク支援実践		
14	27. 支援実習6: 実践 28. 支援実習7: 実践	レク支援実践		
15	29. 支援実習8: 評価 30. まとめ	レク支援をしてみて、体験してみたの評価を話し合う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
レクリエーション支援の基礎 (財)日本レクリエーション協会 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト: 60% 平常点: 40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護過程 I		介護福祉学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	堀内 有美
授業の概要				
・他の科目等で学んだ内容を統合して介護過程を展開できる基礎的な考え方、実践で展開できる能力を養う。				
授業終了時の到達目標				
・介護過程の意義を理解し、利用者の能力に合わせて個別に発展させ、その介護にどのような根拠があるか説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①介護過程とは 1. 生活の過程	介護過程の意義・目的を学ぶ		
2~ 3	2. 介護過程の意義 1	介護過程の展開を学ぶ		
4	②情報収集 4. アセスメントとは	アセスメントの思考の方法について学ぶ		
5	5. アセスメントと介護計画の関連性	アセスメントの(情報収集)の必要性を理解する		
6~ 8	6. 客観的情報 1	事例(演習)を使ったアセスメント体験をする		
9	③医学モデルと生活モデル 9. 医学モデルの視点	医学モデル視点でのアセスメント方法を学ぶ		
10	10. 生活モデルの視点	生活支援における介護過程の意義を理解する		
11~ 12	11. ICFの考え方における介護計画立案について 1	ICFの考え方を活用した情報収集方法を学ぶ		
13~ 14	13. 介護計画のロールプレイ 1	グループワークによるロールプレイを行う		
15	15. 計画の見直し	計画見直しについてグループワークを行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新介護福祉士養成講座 第9巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト: 60% 平常点: 40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護総合演習基礎		介護福祉学科/1年	2020/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	金井太, 堀内有
授業の概要				
・基本的な知識、技術を実習を通じて実践するための具体的方法を学び、個々の不安等を解消し実習に臨めるようにする。また自己の実践内容を分析、考察し自己覚知へとつなげ、高い専門性と倫理性を養い、多様なニーズに適応できる能力を養う。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・介護施設の概要と利用者の生活像を整理、理解でき、介護福祉士としての役割を明確化できる。 ・他者理解に必要な基本的コミュニケーション方法やマナーを習得する。 ・実習のイメージに膨らませ、自身の目標や学習課題を言語化できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
配布プリントを確認しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①介護実習Ⅰ-①の意義、概要 1. 実習の意義と目的	実習の意義について学習する		
2	②コミュニケーション・マナー 2. プロセスレコードの書きかた	施設内でのマナー指導を行う プロセスレコードの書き方を学ぶ		
3	③施設理解 3. 訪問介護	訪問介護事業所について学習する		
4	4. 通所介護	通所介護系のサービスについて学ぶ		
5	5. 小規模多機能型施設	小規模多機能型施設について学ぶ		
6	6. グループホーム等	グループホームについて学ぶ		
7	④記録 7. 介護実習Ⅰ-①の振り返り：プロセスレコード	介護実習Ⅰ①について振り返る プロセスレコードの確認		
8	8. 介護実習Ⅰ-①の振り返り：観察結果	介護実習Ⅰ①について振り返る 観察した結果の確認		
9	9. 介護実習Ⅰ-①の振り返り：その他記録物の確認	介護実習Ⅰ①について振り返る ほかの記録物についての確認		
10	⑤介護活動の場と介護の特性 10. 多様なニーズと介護サービス	多様なニーズを理解する方法を学習する		
11	11. 様々な介護活動の場	様々な介護活動の場について学習する		
12	⑥記録 12. プロセスレコード	プロセスレコードの分析		
14	14. その他実習記録について	その他実習記録の修正		
15	⑦実習での考察 15. 次の実習に向けて	個人表の記入 実習Ⅱ①について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新介護福祉士養成講座 第10巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		課題・レポート	100.0%	【事前準備】 事前に配布資料、 プリントを熟読し しておくこと

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護総合演習Ⅰ		介護福祉学科/1年	2020/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	堀内 有美
授業の概要				
・介護実習Ⅱ-①に関する記録の意義・方法、情報収集および観察技法、施設理解、基本的な介護技術の習得、チームケアについて理解し、円滑に介護実習Ⅱ-①が実践できるようにするとともに、実習後の振り返りを行ない介護福祉士として必要な能力を養う。				
授業終了時の到達目標				
・観察技法を習得し、利用者から情報収集でき、その情報の中から必要な情報を抽出することができる。またケアマネジメントシステムについての基本的な考え方を理解でき、実習を通じて学んだことについて、客観的に振り返り次の実習につなげることができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを熟読しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①実習の意義、概要 1. 介護実習Ⅱ-①の意義と目的	介護実習Ⅱ①の意義、目的について学ぶ		
2	②観察 2. 観察の意義	アセスメントの意義について学ぶ		
3	3. 観察の方法	アセスメントの方法について学ぶ		
4	4. 情報収集1	情報収集のポイントを説明する		
5	5. 情報分析シートの書きかた	事例に基づいて情報分析シートを記入する		
6	③介護技術 6. 清潔・入浴介助について1	実習における入浴、清潔の介護について復習をする		
7	7. 清潔・入浴介助について2	実習における入浴、清潔の介護について復習をする		
8	④記録 8. 介護実習Ⅱ-②の振り返り1: 情報分析シート	情報分析シートの確認、修正		
9	9. 介護実習Ⅱ-②の振り返り2: 事例分析	実際にあった事例を基に、介護のあり方について検討を行う		
10	10. 介護実習Ⅱ-②の振り返り3: 事例分析	実際にあった事例を基に、介護のあり方について検討を行う		
11	11. 介護実習Ⅱ-②の振り返り4: 事例分析	実際にあった事例を基に、介護のあり方について検討を行う		
12	⑤実習での考察 12. 介護技術について	上手くできなかった介護技術について、反省会を行う		
13	13. コミュニケーションについて	難しかったコミュニケーション場面について、グループワークを行う		
14	14. 利用者全体像の把握	情報分析シートをもとに、利用者の全体像をどこまで把握できているか、グループワークを行う		
15	15. チームケアについて	チームケアの重要性について学習する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新介護福祉士養成講座 第10巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		課題・レポート	100.0%	【事前準備】 事前に配布資料、 プリントを熟読し しておくこと

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護実習 I		介護福祉学科/1年	2020/前期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	0.60単位(32時間)	必須	坂井,高吉,金井太,西原,堀内有
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の人物像の把握および、日常生活や生活環境、疾病、障害等を理解するために、基本的なコミュニケーション技術を習得し、介護職としての基本的態度、技術を養う。 ・地域に根ざした施設として、地域とどのように関わっているのかを理解するために、施設の役割、概要を知る。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の人物像の理解。 ・利用者の疾病、障害の理解。 ・積極的にコミュニケーションを図ることができる。 ・計画的な実習を取り組むことができる。 ・提供される介護の必要性を理解できる。 ・基本的な記録物の作成ができる。 				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~15	備考欄参照			
16				
教科書・教材	評価基準	評価率	その他	
事前に配布するマニュアル、プリント	実習・実技評価	100.0%	①介護実習Ⅰ-① (1年前期:32時間) 比較的コミュニケーションの取りやすい利用者を中心に実習を行なうことで、コミュニケーション能力の向上を図り、利用者の人物像の把握、施設の基本的理解を実習を通じて学ぶ。 【実習施設】 グループホーム、通所介護、通所リハビリ、特定施設入居者生活介護、小規模多機能型施設 ・施設の基本的な理解を図るために、施設概要を作成する。 ・人物像の理解を図るために、プロセスレコードを作成する。 ・利用者の全体像を理解するために、観察シートを記入する。	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護実習Ⅱ		介護福祉学科/1年	2020/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	60回	2.70単位(120時間)	必須	坂井, 金井太, 高吉, 西原, 堀内有
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> 施設の役割を理解するとともに、様々な利用者の生活像および生活歴を把握し、介護過程の展開を図るための情報を収集し、ニーズの抽出、アセスメント、計画、実施、評価が一連の介護実践の中で実施できるための基本的な能力を養う。 利用者の生活のあり方について個別に考察し、自立支援に基づいた個別ケアを提供するための基本的技術を学ぶ 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 施設の役割の理解。 利用者の生活像を理解するため情報収集ができる。 利用者ニーズを把握するための情報を分析できる。 福祉用具、福祉機器の知識を身につけ、実際に活用できる。 チームにおける各職種の役割について理解できる。 利用者個々の生活を考えた生活支援のあり方を理解することができる。 自立支援を考えた介護実践ができる。 一連の介護過程の展開ができる。 レクリエーションの実施。 ターミナルケアの理解を深める。 自己の介護観を高める。 				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~60	備考欄参照			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
事前に配布するマニュアル、プリント		実習・実技評価	100.0%	①介護実習Ⅱ-① (1年後期:120時間) 施設の役割が理解でき、利用者の全体像を把握し、個別ケアに必要な情報収集を行い、個別ニーズ抽出のための情報分析を行なうことで、人物像を理解するための、基本的コミュニケーション技術および観察技法について学ぶ。また基本的な記録の書き方においても、専門職としての記録の意義を理解し、記録の重要性を実習を通じて学ぶ。 【実習施設】 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、身体障害者療護施設、障害者支援施設、救護施設 <ul style="list-style-type: none"> 施設概要の作成 利用者の人物像を理解するために、観察シートに利用者情報を記入する。 利用者の情報を分析するために、情報分析シートに記入する。 基本的な介護技術の習得。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
発達と老化の理解 I		介護福祉学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西原 和代
授業の概要				
介護の現場に必要な人間の加齢に伴う身体の発達と新たな可能性の広がりという意味を含む老化について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
人間の発達と老化を理解して、ライフサイクルのイメージができるようになる。 老年期のこころとからだの変化と老人福祉法の関係が理解でき、老人医療制度の現状についても理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師・助産師として23年の実務経験。 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	人間の成長と発達①	成長・発達の考え方を学ぶ		
2	人間の成長と発達②	成長・発達の原理・法則を学ぶ		
3	人間の成長と発達③	成長・発達に影響する要因について学ぶ		
4	人間の成長と発達④	人間の発達理論について学ぶ		
5	人間の成長と発達⑤	人間の発達段階と発達課題について学ぶ		
6	人間の成長と発達⑥	身体的機能の成長と発達について学ぶ		
7	人間の成長と発達⑦	心理的機能の発達について学ぶ		
8	人間の成長と発達⑧	社会的機能の発達について学ぶ		
9	老年期の発達と成熟①	老年期の定義について学ぶ		
10	老年期の発達と成熟②	老化についてその特徴や老化学説について学習する		
11	老年期の発達と成熟③	老年期の発達課題やセクショアリティについて学ぶ		
12	老年期の発達と成熟④	老年期を巡る今日的課題として、日本の高齢化や張る手すの説について学ぶ		
13	老年期の発達と成熟⑤	老化に伴うこころとからだの変化と生活への影響について学ぶ		
14	老年期の発達と成熟⑥	老化に伴う社会的な変化と生活への影響についてまなぶ		
15	老年期の発達と成熟⑦	高齢者と健康(健康寿命にむけての健康、高齢者の症状・疾患の特徴について学ぶ)		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新介護福祉士養成講座 第11巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト: 60% 平常点: 40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
発達と老化の理解Ⅱ		介護福祉学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西原 和代
授業の概要				
高齢者のかかりやすい疾患やそれに伴う障害を理解し、その人の生活のどのような事柄に留意すればよりよい利用者はの援助ができるか学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
高齢者の疾患について知識を持ち、利用者と介護者の双方向の心理を理解したうえで、どのように対処すればよいか判断できるようになる。 保健・医療・福祉の専門職の一員として連携と協力ができるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師・助産師として23年の実務経験。 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	老化が及ぼす心理的影響	老化による心理や行動を理解するための視点を学ぶ		
2	老化が及ぼす心理的影響②	社会的環境の変化と心理的影響について学ぶ		
3	老いの価値観・受容	主観的幸福感、QOL・生きがいの視点について学ぶ		
4	老いの価値観・受容②	動機付け(欲求)に基づく理解と支援について学ぶ		
5	高齢者のこころの問題と精神障害	精神的健康、認知症について学習する		
6	高齢者のこころの問題と精神障害②	気分障害やせん妄、老年期の統合失調症について学ぶ		
7	老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響	老化に伴う外見上の変化と日常生活への影響、免疫機能の変化と日常生活へのえいきょう、感覚機能の変化と日常生活への影響について学ぶ		
8	老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響②	咀嚼機能・消化機能の変化、循環器の機能の変化、呼吸器の機能の変化について学ぶ		
9	老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響③	筋、骨、関節の機能の変化、泌尿器・生殖機能の変化、泌尿器・生殖機能の変化、体温維持機能の変化について学ぶ		
10	老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響	記憶機能の変化(感覚記憶、短期記憶、長期記憶)、認知機能の変化について学ぶ		
11	高齢者の症状・疾患の特徴	慢性であり、複数の疾患を持ち、非定型的な症状があることについて理解する。		
12	高齢者に多い症状・訴えとその留意点	痛みやめまい、複数の疾患を持ち、非定型的な症状があることについて理解する		
13	高齢者に多い病気とその留意点	生活習慣病、骨関節系の病気、感覚器の病気、などについて学ぶ		
14	高齢者に多い病気とその留意点②	内科系疾患、精神の病気などについて学ぶ		
15	保健医療職との連携	保健医療職とのチームケアの必要性和保健医療職との連携のポイントについて学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新介護福祉士養成講座 第11巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト: 6 0% 平常点: 4 0%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
認知症の理解 I		介護福祉学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	金井 太佑
授業の概要				
認知症に関する基礎知識を習得し、意思表示が困難になりやすいという認知症の特性を理解する。				
授業終了時の到達目標				
認知症について正しく理解し、行動障害についてもその背景を理解することで具体的な対応策につなげて考えられるようになる。また若年期に発症した認知症についても理解できる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	介護福祉士として13年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること			
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	認知症を取り巻く状況	認知症を取り巻く状況について学ぶ		
2	認知症ケアの歴史	認知症ケアの歴史について学ぶ		
3	認知症ケアの歴史②	認知症ケアの歴について学ぶ		
4	認知症ケアの概念	認知症の概念を学ぶ。		
5	認知症高齢者の現状と今後	認知症高齢者の現状と今後について様々な資料から学んでいく		
6	認知症に関する行政の方針と施策	認知症に関する行政の方針と施策について学ぶ		
7	医学的側面から見た認知症の基礎	医学的側面からみた認知症の基礎を学習する		
8	認知症による障害	認知症による障害を事例を通して学ぶ		
9	認知症による障害②	認知症による障害を事例を通して学ぶ		
10	認知症と間違われやすい症状	認知症と間違われやすい症状を具体的事例を通して学習する。		
11	認知症の原因となる主な病気の症状	認知症の原因となる主な病気の症状について学ぶ		
12	認知症の原因となる主な病気の症状②	認知症の原因となる主な病気の症状について学ぶ		
13	若年性認知症	若年性認知症について症状、事例を交えて学ぶ		
14	認知症検査、治療の実践	認知症検査、治療について学習する		
15	認知症検査、治療の実践②	認知症検査治療の実践について学習する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新介護福祉士養成講座 第12巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：60% 平常点：40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
認知症の理解Ⅱ		介護福祉学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	金井 太佑
授業の概要				
認知症に対する基礎理解をふまえたうえで、認知症の人やその家族への支援方法、地域連携について理解できる。				
授業終了時の到達目標				
認知症の人の特徴的な心理と行動・日常生活への影響について理解でき、支える家族の支援、サポート体制について考えられるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として13年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内 容		
1	認知症を伴うところからだの変化と日常生活	中核症状について学ぶ		
2	認知症の人の特徴的な心理・行動	BPSDについて学ぶ		
3	認知症に伴う機能の変化と日常生活の影響	認知症の人の介護過程について学習する		
4	認知症に伴う機能の変化と日常生活の影響②	認知症の進行に応じた介護について学ぶ		
5	認知症に伴う機能の変化と日常生活の影響③	認知機能の障害が生活に及ぼす影響について理解する		
6	多職種協働による連携と協議	医療、福祉の連携が認知症患者・家族の孤立を防ぐことを学ぶ		
7	社会的問題	認知症患者が増加することが社会に与える影響について学習する		
8	地域におけるサポート体系	地域を基盤としたサポート体制とその実際について学ぶ		
9	家族への支援	家族が背負う4つの苦しみについて学ぶ		
10	認知症が及ぼす家族との関係	休まない家族へのかかわりについて学ぶ		
11	家族の心理・行動の特徴	家族へのレスパイトケア、エンパワメントについて学ぶ		
12	家族支援	家族会と介護教室について学習する		
13	認知症の人に対する介護	認知症の人へのかかわりの基本について学ぶ		
14	認知症の人に対する介護②	認知症への気づきについて学習する		
15	認知症の人に対する介護③	認知症の人の介護過程、進行に応じた介護について学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新介護福祉士養成講座 第12巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト: 60% 平常点: 40%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
障害の理解 I		介護福祉学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西林 久美子
授業の概要				
障害のある人の基礎知識をふまえて、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。				
授業終了時の到達目標				
障害のある人の理解が深まり、障害に対しての自分なりの見解がしっかりと持て、障害者の気持ちを踏まえた介護実践が実現できるようになる。チームワークの意義を理解し、協働について考えることができるようになる。また、家族への支援についても考えることができるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として9年の実務経験あり これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	障害に伴う機能の変化と日常生活の影響	障害の概念について学習する		
2	障害に伴う機能の変化と日常生活の影響	障害福祉の基本的理念を学習する		
3	障害に伴う機能の変化と日常生活の影響	障害のある人に対する介護基本的視点について学ぶ		
4	障害に伴う機能の変化と日常生活の影響	個別支援のあり方について学習 医学モデルと生活モデル		
5	障害に伴う機能の変化と日常生活の影響	エンパワメントについて学ぶ		
6	障害に伴う機能の変化と日常生活の影響	生活ニーズの把握の重要性について		
7	障害に伴う機能の変化と日常生活の影響	家族支援の視点について学習する		
8	地域の連携や障害を持つ人の家族の心理	障害の受容についてレスパイトサービスについて		
9	地域の連携や障害を持つ人の家族の心理	家族支援のポイントについて学習し、適切な家族支援方法を知る		
10	地域の連携や障害を持つ人の家族の心理	介護負担の軽減方法について学習する		
11	地域の連携や障害を持つ人の家族の心理	障害者が地域で生活するための、問題点、課題を把握し、地域でのアプローチ方法を考える		
12	地域の連携や障害を持つ人の家族の心理	チームアプローチについて学ぶ 他職種の役割について		
13	地域の連携や障害を持つ人の家族の心理	行政、関係機関との連携について学習する		
14	地域の連携や障害を持つ人の家族の心理	インフォーマルサポートネットワークについて		
15	まとめ	障害への支援のあり方をまとめる		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新介護福祉士養成講座 第13巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：60% 平常点：40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
こころとからだのしくみⅠ こころ		介護福祉学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西原 和代
授業の概要				
介護技術の根拠となるこころのしくみを介護実践との関連の中で理解する。 介護サービス提供における安全への留意点をこころのしくみから理解する。				
授業終了時の到達目標				
人間の基本的欲求を理解したうえで、尊厳と結びつけて考えることができる。それをふまえて、介護実践と適応の関係を説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師・助産師として23年の実務経験。 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	人間の基本的欲求の理解と尊厳	基本的欲求について		
2	人間の基本的欲求の理解と尊厳②	社会的欲求について学ぶ		
3	人間の基本的欲求の理解と尊厳③	自己実現について理解する		
4	人間の基本的欲求の理解と尊厳④	欲求階層説、具体例で考える欲求階層説について学習する		
5	自己実現	自己概念に影響する要因について学ぶ		
6	自己実現②	自己への意欲と自己概念について学ぶ		
7	自己実現③	自己実現と尊厳、生きがいについて学ぶ		
8	自己実現④	自己実現に必要なものについて学ぶ		
9	自己実現⑤	②、③、④のまとめ		
10	こころのしくみに関する基礎理念①	こころとは何かについて学ぶ		
11	こころのしくみに関する基礎理念②	脳のしくみについて学ぶ		
12	こころのしくみに関する基礎理念③	学習・記憶・思考のしくみについて学ぶ		
13	こころのしくみに関する基礎理念④	感情のしくみ、認知のしくみについて学ぶ		
14	こころのしくみに関する基礎理念⑤	意欲・動機づけのしくみについて学ぶ		
15	適応のしくみ	適応のしくみについて学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新介護福祉士養成講座 第14巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト: 60% 平常点: 40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
こころとからだのしくみⅠ からだ		介護福祉学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西原 和代
授業の概要				
介護技術の根拠となる人体の構造・機能を介護実践との関係の中で理解する。				
授業終了時の到達目標				
バイタルサイン・恒常性について理解でき、観察・チェックできる。また、ボディメカニクスを含む人体各部の理解ができ、介護実践の最も基本的な根拠が述べられる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師・助産師として23年の実務経験。 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	バイタルサイン・恒常性①	健康状態を知る項目について学ぶ		
2	バイタルサイン・恒常性②	バイタルサインの測定と値の見方について学ぶ		
3	バイタルサイン・恒常性③	意欲、顔貌、顔色、食事、行動の観察法について学ぶ		
4	神経系①	自律神経系について学ぶ		
5	神経系②	中枢神経系、末梢神経系について学ぶ		
6	心血管系	循環器系について学ぶ		
7	呼吸器系	外呼吸、内呼吸について学ぶ		
8	消化器系	消化管と消化腺について学ぶ		
9	代謝系	内分泌系および免疫系について学ぶ		
10	尿路性器系	腎臓と尿路について学ぶ		
11	皮膚及び関連部位	皮膚の役割と皮膚感覚について学ぶ		
12	運動に関連した構造と名称	骨、筋肉の構造とその働きについて学ぶ		
13	関節可動域	関節の運動と関節可動域、関節の拘縮その予防、関節の運動と筋肉の働きについて学ぶ		
14	ボディメカニクス	神経系・骨格系・関節系・筋系とのかかわりを学ぶ		
15	からだの仕組み基礎まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新介護福祉士養成講座 第14巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト: 60% 平常点: 40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
こころとからだのしくみⅡ		介護福祉学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西原 和代
授業の概要				
基礎知識を基に利用者の身支度や移動・食事等の生活を支える介護実践との関係を学ぶ。 身支度に関連したこころとからだのしくみ 移動に関連したこころとからだのしくみ 食事に関連したこころとからだのしくみ				
授業終了時の到達目標				
身支度、移動、食事の生理的・心理的意味を理解し、介護実践に結びつけた援助の方法を考えることができるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師・助産師として23年の実務経験。 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①身支度に関連したこころとからだのしくみ	なぜ身支度を整えるのか、その必要性や身支度に関連したこころのしくみを学ぶ		
2	身支度に関連したこころとからだの基礎知識	なぜ身支度を整えるのか、その必要性や身支度に関連したからだのしくみを学ぶ		
3	口腔のしくみ	口腔の構造、口腔の観察について学ぶ		
4	口腔衛生	口腔の清潔のしくみについて学ぶ		
5	生活場面でのこころとからだの変化の気づきと医療職との連携	身支度という日常生活の中で気づくことのできる、こころとからだの変化や機能低下の予兆のための観察ポイントを学習し、報告の必要性を学ぶ		
6	②移動に関連したこころとからだのしくみ	人が移動する必要性や移動の効果について学ぶ。移動するためのからだのしくみを理解する。		
7	機能低下の障害が及ぼす移動への影響	移動が不自由になる要因を学ぶ、移動が不自由になると生じる状態について学ぶ		
8	生活場面でのこころとからだの変化の気づきと医療職との連携	日常生活の中での観察のポイントを学ぶ。介護すべきか、訓練すべきかの判断のポイントを学ぶ		
9	③食事に関連したこころとからだのしくみ	人間関係に必要な不可欠な栄養素とはたらきを学ぶ。摂食・嚥下(摂り込む、飲み込む)にかかわる解剖としくみを理解する。代償的な栄養摂取法を学ぶ。食事の種類を学ぶ		
10	機能低下の障害が及ぼす食事への影響	精神機能低下の具体的内容を正しく理解する。身体的機能低下の具体的内容を正しく理解する。食事動作に影響する要因の内容を学ぶ。漸進的な機能低下の内容を学ぶ		
11	生活場面でのこころとからだの変化の気づきと医療職との連携	主な身体機能について網羅的に正しく理解する。緊急性を伴う異常の具体的内容をひとつずつ正しく理解する。医療職との連携のポイントを学ぶ		
12	精神機能の低下が食事に及ぼす影響	主な身体機能について網羅的に正しく理解する。緊急性を伴う異常の具体的内容をひとつずつ正しく理解する。		
13	身体機能低下が食事及ぼす影響	緊急性を伴う異常の具体的内容をひとつずつ正しく理解する。主な症状について網羅的に正しく理解する		
14	食事での観察ポイント	食欲不振、脱水症状、低栄養、嚥下障害で気づく観察のポイント学ぶ		
15	食事での医療職との連携のポイント	チーム医療促進のために必要な要素は、安全で確実なケアの遂行であることを学ぶ。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新介護福祉士養成講座 第14巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト: 60% 平常点: 40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
医療的ケア		介護福祉学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	34回	3.40単位(68時間)	必須	北村 文恵
授業の概要				
①医療的ケア実施の基本的知識 ②喀痰吸引(基礎的知識、実施手順) ③経管栄養(基礎的知識、実施手順)				
授業終了時の到達目標				
医療的ケア(喀痰吸引、経管栄養)を安全かつ適切に実施するために必要な知識、技術を学ぶ				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師として6年の実務経験あり これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内 容		
1	医療的ケアの制度、概要	現制度、概要について学習する		
2	医療的ケアの制度、概要	医療的ケア実施に当たっての心構え		
3	医療的ケアの基礎	個人の尊厳と自立、医療の倫理について学習する利用者や家族の気持ちについて		
4	医療的ケアの基礎	保健医療制度、医行為に関する法律について学習する		
5	医療的ケアの基礎	チーム医療と介護職員との連携について		
6	感染予防	感染と予防の基礎知識を学ぶ 感染予防策について学ぶ		
7	感染予防	介護職員の感染予防について学習する 療養環境の清潔、消毒方法		
8	感染予防	消毒と滅菌の仕方について学ぶ		
9	安全管理体制	安全な療養生活 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施		
10	安全管理体制	安全な療養生活 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施		
11	安全管理体制	安全な療養生活 救急蘇生		
12	喀痰吸引についての基礎知識	健康状態の把握 バイタルサイン		
13	喀痰吸引についての基礎知識	急変時の対応について 呼吸の仕組みとはたらき		
14	喀痰吸引についての基礎知識	喀痰吸引が必要な状態および、喀痰吸引で用いる器具、器材とそのしくみなどについて学ぶ		
15	喀痰吸引についての実施手順	人工呼吸器、子どもの吸引、喀痰吸引に伴うケア		
16	喀痰吸引についての実施手順	吸引を受ける利用者家族の気持ち、対応、説明と同意呼吸器系の感染予防、安全確認		
17	喀痰吸引についての実施手順	急変・事故発生時の対応、報告、記録		
18	喀痰吸引についての実施手順	喀痰吸引の実施と手順、留意点 口腔・鼻腔内		
19	喀痰吸引についての実施手順	喀痰吸引の実施と手順、留意点 気管カニューレ		
20	喀痰吸引についての実施手順	喀痰吸引の実施と手順、留意点 口腔・鼻腔内、気管カニューレ		
21	経管栄養についての基礎知識	消化器系のしくみとはたらき 経管栄養とは何かを学ぶ		
22	経管栄養についての基礎知識	器具、器材とそのしくみ、清潔 注入する内容に関する知識		

回	テーマ	内 容		
23	経管栄養についての基礎知識	経管栄養条の留意点、こどの経管栄養		
24	経管栄養についての実施手順	経管栄養に必要なケア		
25	経管栄養についての実施手順	経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意		
26	経管栄養についての実施手順	経管栄養に関する感染と予防 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認		
27	経管栄養についての実施手順	急変、事故発生時の対応と事前対策 報告、記録		
28	経管栄養についての実施手順	経管栄養の実施の手順と留意点 胃ろう、腸ろう、経鼻経管栄養		
29	喀痰吸引まとめ	喀痰吸引の実施と手順、留意点 口腔・鼻腔内、気管カニューレ		
30	喀痰吸引まとめ	喀痰吸引の実施と手順、留意点 口腔・鼻腔内、気管カニューレ		
31	喀痰吸引まとめ	喀痰吸引の実施と手順、留意点 口腔・鼻腔内、気管カニューレ		
32	経管栄養まとめ	経管栄養の実施の手順と留意点 胃ろう、腸ろう、経鼻経管栄養		
33	経管栄養まとめ	経管栄養の実施の手順と留意点 胃ろう、腸ろう、経鼻経管栄養		
34	経管栄養まとめ	経管栄養の実施の手順と留意点 胃ろう、腸ろう、経鼻経管栄養		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護職員等による喀痰吸引テキスト、経管栄養研修テキスト（中央法規） 医療的ケア（メジカルフレンド社）		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：60% 平常点：40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
こころとからだのしくみⅢ		介護福祉学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西原 和代
授業の概要				
基礎知識を基に利用者の入浴・清潔保持、排泄、睡眠の生活を支える介護実践との関係を学ぶ。死に関連した法律及び機能的、身体的、心理的变化を学び、死に行く人の家族も含めた総合的な支援について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
入浴・清潔、排泄、睡眠の生理的・心理的意味を理解し、介護実践に結びつけた援助の方法を考えることができるようになる。 終末期から危篤、死亡時についてこころとからだの変化を理解し、家族をふくめた支援を考えることができるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師、助産師として23年の実務経験あり これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	入浴の必要性、メリット・デメリット		
2	入浴、清潔保持に関連したこころとからだの基礎知識	入浴時の観察のポイント、医療職との連携		
3	機能低下の障害が及ぼす入浴、清潔保持への影響	精神機能の低下・身体機能の低下が及ぼす影響		
4	排泄に関連したこころとからだのしくみ	排泄のしくみ		
5	排泄に関連したこころとからだの基礎知識	排泄での観察ポイント		
6	機能低下、障害が及ぼす排泄への影響	精神、判断力の低下、身体機能の低下が排泄に及ぼす影響		
7	生活場面でのこころとからだの変化の気づきと医療職との連携	尿失禁、便失禁について 排泄での医療職との連携ポイント		
8	生活場面でのこころとからだの変化の気づきと医療職との連携睡眠に関連したこころとからだのしくみ	睡眠のしくみ		
9	睡眠に関連したこころとからだの基礎知識	レム睡眠とノンレム睡眠		
10	機能低下、障害が及ぼす睡眠への影響	睡眠障害		
11	生活場面でのこころとからだの変化の気づきと医療職との連携	生活習慣と睡眠、疾患と睡眠		
12	終末期から死までの変化と特徴	終末期における身体症状の変化を学ぶ		
13	死に対するこころの理解	家族、本人に対する心理的理解		
14	医療職との連携のポイント	ターミナルケアにおける医療職との連携		
15	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新介護福祉士養成講座 第14巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト: 60% 平常点: 40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会人基礎講座		介護福祉学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	田村 栄司
授業の概要				
社会人に向けて基本的なマナーや態度が身につけられるようになる				
授業終了時の到達目標				
履歴書がかけられるようになる 基本的なマナーや態度を身につける				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	社会人のマナーとは	社会人で必要なマナーについて解説を行う		
2	挨拶	挨拶の仕方について学習する		
3	自己分析	自己分析シート解説		
4	自己分析	自己分析シートの作成		
5	履歴書の書き方	履歴書の書き方の説明		
6	履歴書の書き方	履歴書の作成		
7	履歴書の書き方	履歴書の作成		
8	履歴書の書き方	履歴書の作成		
9	面接練習	面接の方法について説明をする		
10~ 11	面接練習	学生同士で模擬面接を行い、グループディスカッションを行う		
12~ 13	グループ討議	グループ面接の練習を行う		
14~ 15	模擬面接	模擬面接を行い、指導を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜資料、プリント配布		授業態度	50.0%	【事前準備】 事前に配布資料を熟読しておくこと
		課題・レポート	50.0%	